

【災害派遣福祉チーム員 登録研修】

ディスカッション 避難所における福祉ニーズを考える

● ● 県

災害福祉支援ネットワーク事務局

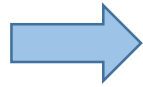
(〇〇災害支援センター、災害派遣福祉チーム事務局 など)

はじめに(この研修は...)

1. チーム員の登録(福祉の専門職...(しかし)様々な立場...)

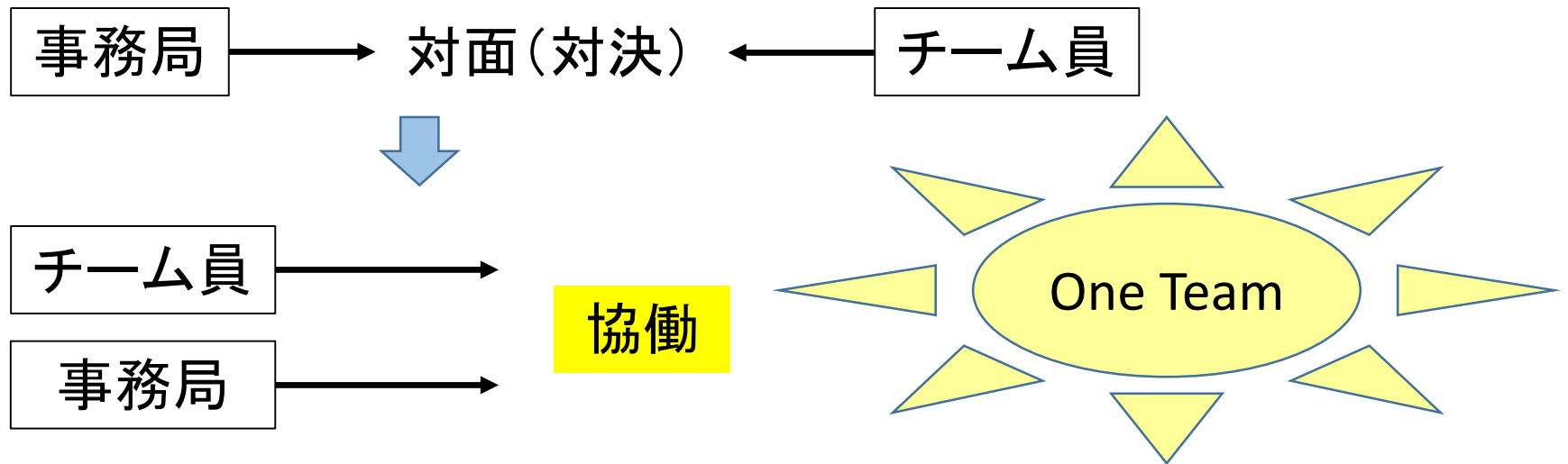
①気持ちをそろえる

②足並みをそろえる



マインドセット(本演習の目的)

2. 事務局とチーム員(対面(対決)ではなく協働)



3. 本日の演習は変則的(標準研修では100分(110~120分))

登録研修を、①受講する立場で体験、②実施する立場で準備

⇒本日は1/2~1/3スケールで体験+ポイント解説で実施

ポイント① 準備物とセッティング

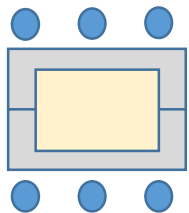
ポイントスライド
は、実際の研修
ではカット

【準備物】※演習スライドは印刷・配布しない。

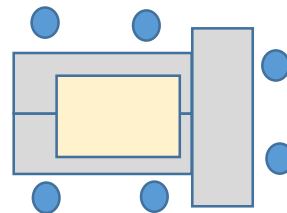
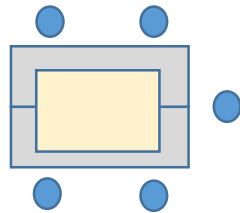
1. 模造紙: 各グループに1枚
2. 付箋紙: 5.0cm × 7.5cmのもの、各グループに2束(100枚を2色)
※7.5cm × 7.5cmでは大きすぎる。仮に水色と黄色の2色とします。
3. マジック: 裏写りしないマジック(8色組) × 各グループに1セット

【セッティング】

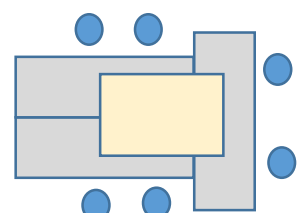
1. グループの人数は5～6名がちょうど良い。
2. 着席の配置は、模造紙を囲んで作業できるようにします。
⇒机の大きさにもよるが、2台を向かい合わせに並べる配置



または



位置を修正



はじめに（演習の説明）

2分

- 前段の行政説明では、災害時要配慮者支援の概要および災害派遣福祉チームの活動経過について学びました。それを受け、後半の演習では、支援のターゲットとなる「一般避難所における福祉ニーズ（生活ニーズ）」について考えていきます。
- 演習手法は「ブレインストーミングとK J 法」等を活用して整理を進めていきます。

ポイント② 演習の目的と動機付け

1. この演習の目的は、チーム員が「自分達のチームは自分達で作る」という自覚(主体性)を持つこと、つまりマインドセットすることです。演習では、チーム員が自分から生き生きと演習に取り組む雰囲気は何よりも重視して下さい。
2. 災害派遣福祉チームが目指すのは二次被害の防止、被災地の自立と復旧・復興です。避難者の役割、地域資源の活用を意識できるよう声かけをしましょう。
3. 大規模災害時には、必ずと言っていいほど「想定外」という言葉が聞かれます。この演習では、二次災害の原因となる「避難所における生活ニーズ」をしっかりととらえ、想定外を減らしていきます。
4. 状況を見て、短い時間で「課題を抽出し、整理する手法」は、被災地での支援、状況判断の訓練にもなります。

状況の概要（設定）

2分

- 2019年6月21日（金）の夜9時過ぎ、M7.0の地震が発生しました。いくつかの家屋は半壊となり、余震が続いているため、弱い雨の中、夜のうちに住民の多くが町立小学校の体育館に避難しました。住民の中には、要介護高齢者や障害児者、乳幼児といった要配慮者も含まれているようです。
- 本日は6月25日（火）、発災から5日目です。発災の翌日には自衛隊により仮設トイレが設置され、パンや弁当の配布が行われています。床に柔道の畳等を敷いて2～4畳を1つの家族で使用、段ボール等で簡易な仕切りを立てて生活している状況です。

ポイント③ 日時や災害種別など設定について

1. 日時を「研修当日の日時」に合わせると、気温や天気などをよりリアルに感じることができます。

例) 研修日が1月28日(火)の場合→1月24日(金)に設定

2. 災害の種類によって避難所の状況や課題、生活ニーズは異なります。今回は地震で演習を進めますが、災害種別による状況や課題の違いに焦点を当て考える(例えば、災害別で比較検討する、各県で起こり得る災害を検討する)ことも今後の研修プログラムになり得ます。

※避難所例

1分



ポイント④ 写真を見てイメージする時間を作る

1. せっかく写真を見せたのに(単なるイメージであるだけに)先を急ぎがちになります。受講者には、避難所を見たことのない人も含まれるので、30秒程度でもイメージする「間(ま)」を作りましょう。

演習手法（ブレーストリーミングとK J 法） 5分

【ブレーストリーミング】（発想法）

与えられたテーマについて、付箋紙に可能な限り項目を書き出します。常識にとらわれず、とにかく思いつく限りのことを書き出してください。多いほど良いです。

尚、1枚の付箋紙には1つの項目をマジックで書いてください。

【K J 法】（分類法）

それぞれが書いた付箋紙を出し合い、同じものや類似しているものを集めて模造紙上に配置、分類します。分類項目（付箋紙の集まり、島）が大きすぎれば内容を精査して分割、また、分類項目同士で似ているものは近くに配置してください。そして、最終的に分類項目ごとに内容を象徴する名称を付けてください。

⇒○色の付箋紙を15枚ずつ、マジックを1本ずつ取って下さい。

ポイント⑤ 演習(ブレインストーミング)の準備

1. 2色の付箋紙のうち1色を指定し、全Grが同じ色で作業すると全体で共有しやすいです。例)最初は水色、2回目は黄色
2. 黄色の付箋紙を15枚程度ずつGrメンバーに分けます。数え始めるGrが出てきますが、適当で大丈夫ですと伝えます。
3. 好きな色のマジックを1人につき1本取ります。ただし、黄色は見えにくいので除きます。選んだマジックを最後まで使います。

手順 1 - 1 : 避難所における福祉ニーズ 10分 (8分)

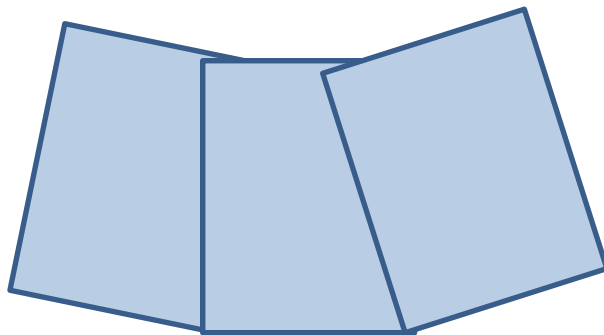
- 災害発生から5日目の避難所における福祉ニーズ、すなわち生活ニーズとして考えられることを書き出して下さい。
- その際、避難者からの要望等として直接あがってくるニーズだけでなく、表明しにくい（できない）潜在的ニーズも含み、想像力（もし○○ならという想定力）を働かせて可能な限り多く書き出して下さい。

ポイント⑥ たくさん書くための促し

1. 難しく考えず、とにかく数多く出せるように促します。
2. あまり詳しく書きすぎないように注意します。
3. 大括りにならないように具体的に記入します。例) 生活物資→何？

手順 1 - 2 : 避難所における福祉ニーズ 15分 (13分)

- ブレーンストーミングであげた避難所における福祉ニーズを模造紙上に出し合い、K J 法によって分類・整理します。同じものや似たものについて以下のように一部を重ねて配置（島ごとに移動可能に）していきます。



← こんな感じ

- 付箋紙を提出する際は必ず口頭で発言、グループで共有しながら配置して下さい。また、分類・整理の過程で思い付いたものがあれば付箋紙に記入して追加して下さい。

ポイント⑧ KJ法の留意点

1. 司会を決めた方が作業がスムーズに進むと思います。「指名方式」は場が和みお勧めです。メンバーの顔を見て→心の中で一人を選ぶ→合図で指さし→指名の多い人が司会（同点はジャンケン勝ち）
2. 1人が連続して手持ち全ての付箋紙を出すGrがあります。1枚ずつ出して「私も同じ」「似てるものある」と重ねて島を作ります。
3. 思い付いたものがあれば付箋紙に書いて追加するよう促します。

手順 2 - 1 : 避難所における福祉支援 10分 (8分)

- 手順 1 で挙げた避難所における福祉ニーズに対する手当てや対応、すなわち福祉支援について書き出して下さい。
- その際、支援者等が実施する人的支援だけでなく、環境や物資といった物理的支援、被災地域に限らない組織的な動き、それを裏付ける制度的支援（一時的な手続き等を含む）も含めて可能な限り書き出して下さい。
- 目の前にあるすべての福祉ニーズに手当てする積りで、どんどん書き出して下さい。

ポイント⑨ 多様な支援を考える促し

1. 実現可能か、実際に担い手を確保できるのか等の吟味は後にして、ニーズに対する手当てを考えるよう促します。
2. 福祉支援がイメージできない人には、目の前に貼ってあるニーズに1つずつ手当てするよう促します。
3. 災害派遣福祉チームだけで解決しようとせず、多職種や地域資源の活用も含めた手当の可能性を考えるよう促します。

手順 2 - 2 : 避難所における福祉支援 10分 (8分)

- ブレーンストーミングであげた避難所における福祉支援を模造紙上に出し合い整理します。ただし、既に福祉ニーズは整理されていますので、分類した島ごとに福祉支援を配置して下さい。
- 付箋紙を提出する際は必ず口頭で発言、グループで共有しながら配置して下さい。尚、配置が終われば、すべての福祉ニーズに対応しているかを確認し、不足しているものがあれば付箋紙に記入して追加して下さい。

ポイント⑩ 支援の充実を考える促し

1. 医師が...や、保健師が...という多職種ばかり挙がるGrがあれば、福祉チームは何を担うのか、何ができるのかを考えるよう促します。
2. 「暖かい食事の確保」→「ボラ団体とも協力して暖かい食事の確保」のように、「何を」だけでなく「どうやって」を考えるよう促します。
3. 手当の偏りや全く手当てしていない島が出てきます。全ての島に福祉支援を考えられるよう促します。

手順 3 : 災害時要配慮者支援の準備 15分

- 手順 1、手順 2 では、災害時の一般避難所における福祉ニーズ及び福祉支援について考えてきました。手順 3 では、それらを踏まえ、災害時に福祉支援を適切に提供するために**平時に準備しておく事柄**をグループで出し合います。
- ①**災害派遣福祉チームとして平時に準備しておくこと**、また②**被災するかもしれない地域として平時に準備しておくこと**をグループで話し合い、意見は「災害時要配慮者支援の準備シート」に書き留めておいて下さい。※発表の資料

⇒前者が**災害派遣福祉チームの研修メニュー**、後者が**平時にチームが関与すべき地域活動**として反映されます。

ポイント⑪ 平時の活動への視点の転換

1. ⇒部分(スライドイン)は、シートの書き込みが終わった後に「種明かし」的に示した方が「なるほど」感が高いです。
2. 平時の活動には、①災害派遣福祉チームとしての訓練と②受援力のある地域作りへのチームの貢献が含まれます。
3. 議論は活発でも書いて残すことが疎かになるGrが出てきます。書いて残すことを促して下さい。
4. 書き残したものを以後の訓練に反映するとチームが「自分たちのチームを自分たちで作っている」感を得ることができます。

手順 4 : 発表（ポスターセッション方式）

15分

- 発表はポスターセッション方式を用いて、全てのグループが各テーブルで一斉に実施します。
- 各グループで発表者 1 名をテーブルに残し、その他のメンバーは他グループのテーブルに一人ずつ散らばり、発表を聞いて質疑応答に参加します。
- その際、後で自分のグループに戻って情報共有をしますので、必ずメモを取りながらセッションに参加して下さい。
- それでは、メモを持って移動してください。
- 発表のお礼を言って自分の席に戻して下さい。

ポイント⑫ 報告のスムーズな運営

1. 「...メモを持って」、「...お礼を言って」はタイミング良くスライドインして、速やかな移動を促します。
2. 発表が早く終わったGrには、質疑応答で時間を有効に使うよう促します。
3. 詳しく説明し過ぎて「シート」まで行かないGrがあるので、時間をアナウンスしてバランスの良い報告をサポートします。

手順 5 : 発表内容の共有

10分

- 自分のテーブルに戻り、自分のグループの発表に対する質疑内容に関して確認し、また他グループの発表で特に興味深かった内容を共有します。
- 発表や質疑を通じて、新たな視点や具体的な内容について気付きがあれば、付箋紙やマジックで加筆して下さい。

ポイント⑬ 「共有した」感の共有

1. 時間が押していれば、移動しながら手順の説明をしてしまいます。
2. 自Grの報告がどうだったのかを共有することを大切にします。
3. 既に十分に演習をしているので、実際の「発表内容の共有」よりも「共有した感の共有」を大切にします。

おわりに

5分

災害派遣福祉チームが被災地で適切に活動するためには、

1. モチベーションの維持（平時の活動、受援力のある地域）
2. お客さんではなく主体性（理解し、行動できるか）
3. 相手に合わせる柔軟性（常に相手視点、被災地主体）
4. 個人プレーでなくチームアプローチ（個人の手柄は不要）

・・・が大事です。

災害時は良くも悪くも平時を反映し、「お客さん」は被災地の迷惑になります。また、被災地の状況は非常に流動的で、ニーズは変化し、それを見極め、柔軟に対応、活動する力が必要です。

災害派遣福祉チームが目指すのは二次被害の防止、被災地の自立と復旧・復興です。主役は常に「相手」です。生活を支援する福祉の専門職として、被災者の生活に寄り添いましょう。²⁶

ポイント⑭ 演習の終わり方

1. この演習の目的は、チーム員が「自分たちのチームは自分たちで作る」という意識を持つこと、災害派遣福祉チームの一員としてマインドセットすること、強い自覚を持つことです。
2. スライドの1～4は、とても重要です。ゆっくりと確認しながら、受講者と内容を共有しながら読みましょう。
3. 最後の1文「生活を支援する福祉の専門職として、被災者の生活に寄り添いましょう」をはっきりと少し大きな声で言うと、演習全体が引き締まります。
4. 最後まで説明し終われば、「これで演習を終了します。ありがとうございました」とはっきりと宣言すれば、ほぼ間違いなく拍手が起こります。